

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成30年5月
十日町市（新潟県）

全体総括

○計画期間：平成25年7月～平成30年3月（4年9月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市は、平成25年6月28日に十日町市中心市街地活性化基本計画の認定を受け、『「新たなにぎわい」に満ちた「魅力あるまち」の創造』を基本理念に掲げ、「雪国でも快適で安心して暮らし続けられるまち」、「歩いて楽しいまち」、「いきいきとまちづくり活動ができるまち」を基本方針に、①「暮らす人を増やす」、②「訪れる人を増やす」、③「活動する人を増やす」を目標に掲げ、中心市街地の活性化に向けて各種事業に取り組んできた。

①「暮らす人を増やす」では、H27年9月にサービス付き高齢者向け住宅及びファミリー向け都市型住宅「アップルとおかまち」がオープンしたことなどにより、雪国でも安心して暮らせる環境づくりが進んだ。また、十日町駅西土地区画整理事業区域において10区画の売買が行われるなど、計画策定前に比べ社会動態が増加する行政区も増えてきている。

②「訪れる人を増やす」では、旧娯楽施設跡地に整備した十日町産業文化発信館「いこて」や低未利用ビルをリノベーションした市民交流センター「分じろう」は、多様な人々の集客・回遊の拠点施設となっており、地域内外の交流の場として平日休日を問わず連日多くの人で賑わっている。また、商店街が中心となって毎月10日に開催している「とおか市」は好評で、参加店が100店舗を超え多くの来街者で賑わっている。商店街と市民が一体となった取り組みにより、まちなかに新たなにぎわいが生まれた。

③「活動する人を増やす」では、越後妻有文化ホール・中央公民館「段十ろう」と市民活動センター「十じろう」や市民交流センター「分じろう」などの公益施設をまちなかに新たに整備したことにより、既存の公民館活動がまちなかで展開されることや当該施設を活用した新たな市民活動も生まれた。今後も、中心市街地活性化事業で整備した各施設間の連携を図ることにより、活動する人の増加が見込まれる。

このように、基本理念に掲げた市民活動などの展開による「新たなにぎわい」の創出や安心・快適なまちづくりが進み一定の成果があったものの、来街者の回遊性の向上や、車移動の生活様式や多様な消費ニーズなどによる中心市街地の商業活動の地盤低下は継続的な課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ】

（中心市街地 区域内）	24年度（計画期 間開始前年度） （平成25年3月末）	平成25年度 （平成26年3月末）	平成26年度 （平成27年3月末）	平成27年度 （平成28年3月末）	平成28年度 （平成29年3月末）	平成29年度（計 画最終年度） （平成30年3月末）
人口	4,348人	4,338人	4,310人	4,250人	4,232人	4,111人
人口増減数	-24人	-10人	-28人	-60人	-18人	-121人
社会増減数	-50人	11人	-9人	-38人	14人	-88人
転入者数	227人	293人	223人	247人	289人	200人

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ☒ 概ね順調に進捗・完了した ☐ 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ☒ かなり活性化が図られた
☒ 若干の活性化が図られた
☐ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
☐ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

基本計画に掲げた 66 事業のうち 62 事業を実施しており、概ね順調に進捗・完了したといえる。

全国の地方都市で見られる人口減少は本市においても例外ではなく、市全体で毎年 900 人程度の人口が減少し続けているが、中心市街地エリアの人口は減少しているものの減少率は市全体に比べて緩やかである。

基本計画に掲げた目標指標である「人口の社会動態」については、サービス付き高齢者向け住宅及びファミリー向け都市型住宅「アップルとおかまち」の整備や十日町駅西土地地区画整理地内の保留地の売却によりその地域の人口の社会増は進んだが、家族単位の転勤や進学などによる転出が予想以上に多く、計画区域内全体の人口の社会動態は目標を達成することができなかった。

次に、「歩行者・自転車通行量」については、中心市街地内に新店が出店していたスーパーが閉店したことや施設の改修期間中に一時的に通行量が落ち込んだが、市民交流センター「分じろう」などの施設のオープンにより通行量は回復の兆しがあるものの、計画期間中には目標値に達する事ができなかった。また、最終の数値測定時期の平成 29 年 5 月は、本計画のコア事業である十日町市市民文化ホール・中央公民館「段十ろう」のオープン前であり、「段十ろう」オープンの平成 29 年 12 月以降の来街者の回遊性については今後注視していく必要がある。

一方、「文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数」については、整備された施設における既存の活動や新たな市民団体によるまちなかでの活動、イベント実施等により、目標値 148,000 人/年を大きく上回る 188,169 人/年となった。

このような状況を見ると、「人口の社会動態」「歩行者・自転車通行量」は目標達成には至らなかったが、過去の経済活動による「にぎわい」ではなく、基本理念に掲げた市民の「つながり力」や「市民活動」といった社会的な資本を生かした「新たなにぎわい」を創り出す事ができたことから一定の効果があつた。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

十日町市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら中心市街地の活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業は概ね実施されたと考える。

ハード事業においては、地域住民の悲願だった大型空き商業ビルの再開発が民間事業によって実施され、市民の交流の場としてその機能を果たしている。行政が担う事業では、昨年 11 月に「越後妻有文化ホール・十日町市中央公民館」が完成した。これにより計画された事業は全て終了し、市民活動や交流の拠点として大きな効果を発揮している。

また、ソフト事業においては、中心市街地整備推進機構の「NPO にぎわい」が地域住民や小中高生を巻き込んだ様々な事業を展開して、中心市街地のにぎわい創出に取り組んでいる。

このようにハード・ソフト事業に官民が連携して事業に取り組むとともに、地域住民や商店街も一体となったイベントを実施するなど、中心市街地活性化に対する機運は高まりつつある。

計画に掲げた 3 つの数値目標については、「暮らす人を増やす」は、社会動態をプラスと目標設定したが、社会増と減を繰り返す推移をしていたものの、予想以上の転勤や進学による転出減が上回り、最終的に 5 年間の合計が 110 人のマイナスとなった。

「訪れる人を増やす」は、目標 6,400 人/日に対して最新値では 5,694 人/日と基準値（平成 23 年数値）よりも悪化しており、今後の活性化推進に向けた課題となっている。

「活動する人を増やす」では、新たな施設の完成に伴う利用者の増加や新たに「NPO ひとサポ」が加わって中心市街地活性化事業に取り組むなど、様々な活動が複合的に展開されて目標数値を大幅に超過した。

今後は、計画の事業の成果をもとに、市民や商業者等とのコンセンサスを図りながら、引き続き官民一体となって中心市街地の活性化に取り組むことが重要である。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

十日町市総合計画に関するアンケート調査

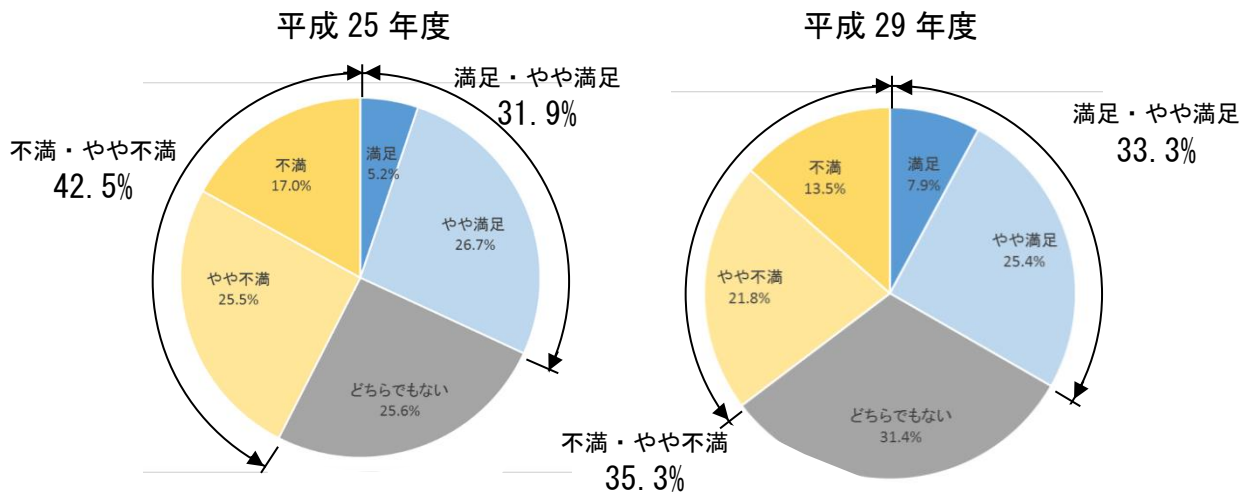
調査時期：平成 25 年 6 月、平成 29 年 11 月

調査対象：十日町市在住の 20 歳以上の市民から抽出した 3,000 人

調査方法：アンケート調査

○「中心市街地での暮らし（満足度）について」の設問で、①満足②やや満足③どちらでもない④やや不満⑤不満、で回答を求めた。

- ・直近の調査で、「満足」「やや満足」と回答した割合が 3 割を超えている。（33.3%）
- ・その割合は前回調査と比較して伸びている（前回調査 31.9%）
- ・中心市街地での暮らしの満足度割合が増えており（31.9% ⇒ 33.3%）、不満度割合が減っている（42.5% ⇒ 35.3%）ことから、若干の活性化が図られたと言える。



6. 今後の取組

基本計画に基づいた各種事業に取り組んだことで、達成できなかった目標指標はあるものの、着実に中心市街地の活性化に向けて歩みを進めてきた。

今後の更なる活性化に向けては、引き続き官民一体となって中心市街地の魅力を高める取り組みが必要である。

完成した各施設間の連携や回遊性を高める仕組みづくりを進め、日常のにぎわいにつなげる取り組みや、新たに取り組みを始めた「とおか市」、「まちゼミ」等のイベントを通じて、空き店舗を活用した新規出店を促すことによって商店街の来客数を増やし、経済活力の向上を図る取り組み等を推進する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
暮らす人を増やす	人口の社会動態 (H25～H29 年)	(H19～H23 年度の合 計) ▲85 人	(H25～ H29 年度 の合計) 社会動態 をプラス	▲110 人	H30.3	C
訪れる人を増やす	歩行者・自転車 通行量 (平日)	5,841 人/日	6,400 人/日	5,694 人/日	H29.5	C
活動する人を増やす	文化、活動施設の 利用者数及び屋外 活動者数 (年間)	(H19～H23 年の平均) 126,682 人 /年	(平成 29 年) 148,000 人 /年	188,169 人/年	H30.3	A

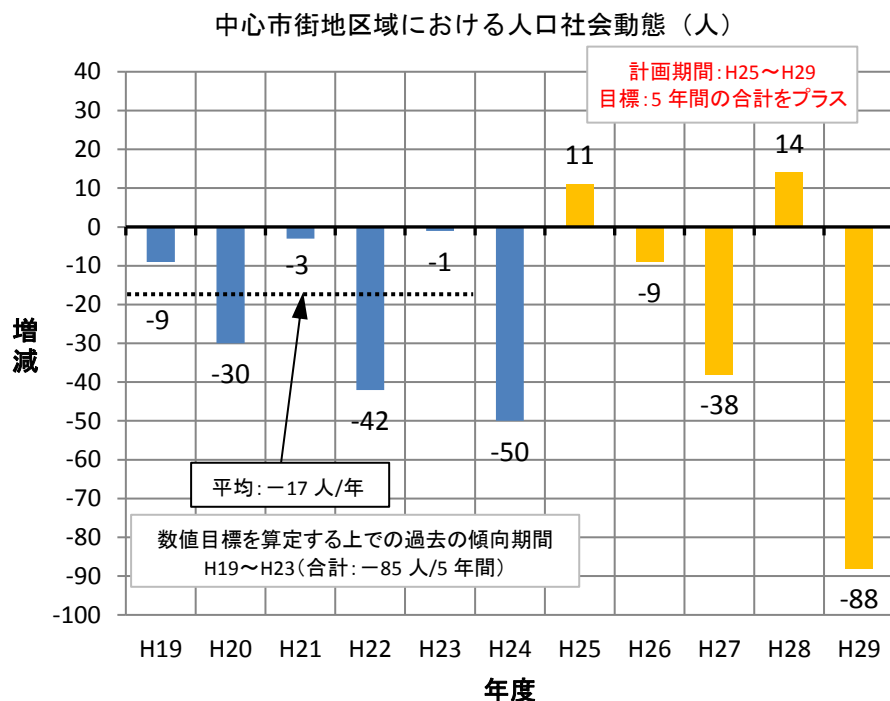
注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「人口の社会動態」(H25～H29 年度の合計) ※目標設定の考え方基本計画 P113～P116 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H23	▲85 人 (基準年値) H19～H23 合計
H25	11 累計: 11
H26	▲9 累計: 2
H27	▲38 累計: ▲36
H28	14 累計: ▲22
H29	▲88 累計: ▲110
H29	(目標値) H25～H29 合計プラス

※調査方法: 計画期間(平成 25～29 年度)の住民基本台帳に基づく
中心市街地の居住人口の社会動態の合計

※調査月: 毎年 3 月 31 日

※調査主体: 十日町市

※調査対象: 計画区域(中心市街地の居住人口)

2. 目標達成の状況【C】

目標である「暮らす人を増やす」に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗・完了することができた。しかし、計画期間 5 年間の人口の社会動態をプラスにするという数値目標については、基準年値 -85 人に対し、5 年間の合計は -110 人となり目標値及び基準値にも及ばなかったため、達成状況を「C」とした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. サービス付き高齢者向け住宅整備事業

・ファミリー向け都市型住宅整備事業(株)ファイン・テン

支援措置名及び 支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(とおかまち地区<第2期>)) ・社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(本町2丁目地区)) ・平成 24 年度～平成 26 年度
事業開始・完了 時期	平成 24 年度～平成 27 年度【済】
事業概要	構造:RC 造、地上4階、地下1階 サービス付き高齢者住宅:50 戸(2～4階)延床面積 約 2,200 m ² ファミリー向け都市型住宅:12 戸(5階) 延床面積 約 500 m ²
目標値・最新値	目標値:76 人 最新値:41 人

達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	「サービス付き高齢者向け住宅」と「特別養護老人ホーム」の相違の理解が思うように進まず、入居率が思うように上がらなかった。また、単身世帯による入居が多く、入居者数の増加につなげていない状況である。
計画終了後の状況（事業効果）	平成27年9月に「アップルとおかまち」としてオープンした。降雪による屋根の雪下ろしや除雪に心配なく、安心して快適に暮らせる居住環境が提供できた。また、併設する子育て支援施設「くるる」との三世代交流が行われるなどコミュニティの醸成も進んでいる。 また、本施設は福祉避難所の指定を受けており、災害時における周辺住民が安心して避難できる場となっている。
事業の今後について	実施済み

②. 十日町駅西土地区画整理事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	平成5年度～平成24年度【済】
事業概要	ほくほく線の開通に伴う駅西口広場整備による駅西地区の拠点化と、都市計画道路をはじめとした都市基盤の先行整備を図り、住・商・工のバランスのとれた雪に強い市街地形成を目指す。
目標値・最新値	目標値:42人 最新値:27人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	民間事業者による8戸分の集合住宅の建築を見込んでいたが、建築がなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	快適な居住空間が創出されたことにより、集合住宅の建築はなかったものの、目標より多い10区画の分譲地が売却され、区画整理地内での人口増が図られた。
事業の今後について	実施済み

③. 克雪すまいづくり支援事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	平成25年度～平成29年度【実施中】
事業概要	屋根雪処理による落雪事故の防止や雪国でも快適に生活するために、屋根融雪装置を設置した住宅及び融雪構造にする住宅の建設・改造への支援を行う。 ・通常助成額44万円(全市) ・嵩上げ支援66万円(中心市街地区域)
目標値・最新値	目標値:— 最新値:46件
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	平成25年から平成29年度までの5年間で46件の申請があり、克雪住宅化が図られた。
計画終了後の状況（事業効果）	人力による雪降ろし住宅に対する過大な負担軽減と危険防止を排除し、冬期の居住環境の改善を図ることで、雪国でも安心して快適な生活を送ることが出来るようになった。

事業の今後について	今後も同じ内容で継続する。
-----------	---------------

④. 道路消雪施設整備事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	・防災・安全交付金(道路事業) ・平成 24 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 24 年度～平成 25 年度 【済】
事業概要	市道山本高山線に消雪パイプを新規に敷設する。
目標値・最新値	目標値:－ 最新値:さく井 3 箇所 送散水管敷設 L=949m
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	市道山本高山線に消雪施設を整備した。
計画終了後の状況（事業効果）	冬期間の除雪により幅員が狭小となる道路へ消雪施設を整備することで、通年を通した自動車及び歩行者の安全で快適な通行の確保に寄与している。
事業の今後について	実施済み

4. 今後について

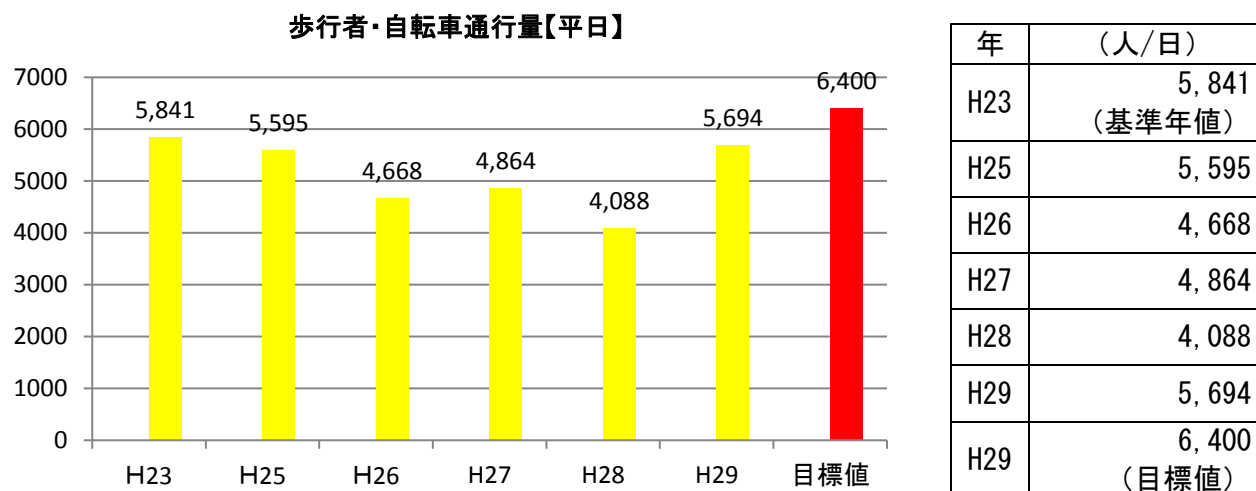
計画地域内の「人口の社会動態」（H19～H23 年度の合計）基準年値－85 人に対し、H25 年＋11 人、H26 年－9 人、H27 年－38 人、H28 年＋14 人、H29 年－88 人、累計－110 人となり、5 年間の合計をプラスにする目標を達成することはできなかった。

十日町駅西土地区画整理区域における宅地供給については、目標数値設定時に 5 年間で 8 区画の分譲、及び民間事業者による 8 戸分の集合住宅を加えることで増加人数を 42 人と見込んでいた。実際、集合住宅の建築はなかったものの、分譲地については、目標より多い 10 区画が売却されたことにより区画整理地内での人口の社会増は図られた。今後も残りの区画の販売促進を図ることで、民間住宅の建築や、区域内に設置される県立看護学校の学生宿舎としての民間集合住宅の供給などにより転入者の増加が見込まれる。

また、H27 年 9 月にオープンした『サービス付き高齢者向け住宅及びファミリー向け都市型住宅「アップルとおかまち」』については、施設整備により雪国でも安心して暮らせる環境づくりが進んだが、サービス付き高齢者向け住宅と特別養護老人ホームの相違の理解が思うように進まず入居率が上がらなかった。今後、住宅の性質などを十分に周知することや、市外への PR を行うことなど入居率の向上を図っていくための様々な広報活動等を行うことにより、入居者数の増加も期待できる。

また、これからも、「克雪すまいづくり支援事業」などの支援を継続し、制度の周知を図りながらまちなかへの転入を促進していく。

1. 調査結果の推移



※調査方法：歩行者・自転車通行量調査 毎年5月第4日曜日及び木曜日

※調査月：毎年5月

※調査主体：十日町市

※調査対象：中心市街地内6地点における歩行者及び自転車の通行量

2. 目標達成の状況【C】

目標である「訪れる人を増やす」に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗・完了することができた。しかし、歩行者・自転車通行量（平日）を6,400人/日にするという数値目標については、基準年値5,841人に対し、最新値は5,694人であり目標値及び基準値に達しなかったため、達成状況を「C」とした。

なお、最新値は本計画のコア事業である「十日町市市民文化ホール・中央公民館」がオープンする平成29年12月以前の数値であり、施設の効果を反映させることはできなかった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①.（仮称）市民交流センター整備事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(とおかまち地区<第2期>)) ・平成26年度～平成27年度
事業開始・完了時期	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	施設のリニューアル RC造4階建、1～2階を改修、改修面積約900㎡ ・情報ラウンジ、文化歴史コーナー(1階) ・和室、茶室、会議室(2階)
目標値・最新値	目標値:1,500人 T.E/ha・日×350㎡÷10,000=52人/日・・・利用者数 52人/日×2(往復分)=104人/日・・・通行量 最新値:1,500人 T.E/ha・日×421㎡÷10,000=63人/日・・・利用者数 63人/日×2(往復分)=126人/日・・・通行量
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の案内機能や交流・憩いの場としての整備により、連日多くの人が訪れている。平成29年度の利用者数は40,546人と前年度より増加している。

計画終了後の状況（事業効果）	平成 28 年6月に愛称「分じろう」としてオープンした。来街者への中心市街地や地域内外の情報提供、及び、まちの文化・歴史を感じられる場所とすることで、地域内外の交流が深まり、市街地を訪れる人が増えた。 また、市民の交流の場としての利用も多く、地域のコミュニティ醸成や新たな市民活動が増えてきている。
事業の今後について	実施済み

②. (仮称) 産業・文化発信館整備事業（株フジタ）

支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(とおかまち地区<第2期>)) ・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(暮らし・にぎわい再生事業(本町5丁目地区)) ・平成 24 年度～平成 26 年度
事業開始・完了時期	平成 24 年度～平成 26 年度【済】
事業概要	空きビル跡地を活用して、店舗、交流広場等からなる施設を整備 敷地面積:1,250 m ² 構造:木造2階建て 延床面積:1,200 m ² 1階 カフェレストラン、広場、雁木 2階 交流スペース
目標値・最新値	目標値:9,500 人 T.E/ha・日×500 m ² ÷10,000=475 人/日・・・利用者数 475 人/日×(53%+5%+9%+5%)=342 人/日・・・徒歩等 342 人/日×2(往復分)÷2(北方向)=342 人/日・・・北方向 342 人/日×5%×2(往復分)×2(調査地点)=68 人/日・・・南方向 342 人/日+68 人/日=410 人/日・・・通行量 最新値:9,500 人 T.E/ha・日×489 m ² ÷10,000=464 人/日・・・利用者数 464 人/日×(53%+5%+9%+5%)=334 人/日・・・徒歩等 334 人/日×2(往復分)÷2(北方向)=334 人/日・・・北方向 334 人/日×5%×2(往復分)×2(調査地点)=66 人/日・・・南方向 334 人/日+66 人/日=400 人/日・・・通行量
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	1階はカフェレストラン、2階は多目的スペースがあり、屋外ではイベントが開催されるなど、多くの人々が利用している。大地の芸術祭などのイベント時は芸術祭作品として来街者の回遊拠点となるが、平常時には来客者の回遊に結びつかなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 27 年6月オープンした『十日町産業文化発信館「いこて」』は、市民や来街者の交流できる施設としてや、大地の芸術祭の作品となっており、特に芸術祭期間中や各種イベント時は来街者が中心市街地内を回遊するための拠点となり、周辺地域のにぎわいの向上に寄与している。
事業の今後について	実施済み

③. 老人デイサービス施設整備事業（株ファイン・テン）

支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(とおかまち地区<第2期>)) ・社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(本町2丁目地区)) ・平成 24 年度～平成 26 年度
事業開始・完了時期	平成 24 年度～平成 27 年度【済】
事業概要	構造:RC 造、地上4階、地下1階 老人デイサービス(1階) 延床面積:349.40 m ²

目標値・最新値	目標値:20人×40%×2往復=16人・・・通行量 最新値:20人×40%×2往復=16人・・・通行量
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	平成27年9月、「アップルとおかまち」内にデイサービスセンター「アップルつまり」としてオープンしたことにより、従業員の通勤や買い物などから、概ね目標通りの効果を得ている。
計画終了後の状況（事業効果）	サービス付き高齢者向け住宅や子育て支援施設「くるる」と併設した老人デイサービス施設であり三世代の交流が行われ、施設使用者から大変喜ばれている。また、中心市街地に居住する高齢者も安心して生活できる環境が整備された。
事業の今後について	実施済み

④. 子育て支援施設整備事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(とおかまち地区<第2期>)) ・平成24年度～平成26年度
事業開始・完了時期	平成27年度【済】
事業概要	構造:RC造、地上4階、地下1階 子育て支援センター(1階) 延床面積:374.2㎡
目標値・最新値	目標値:41人/日×20%(増加率)×30%(交通分担率)=2人/日 2人/日×2(往復分)=4人/日・・・通行量 最新値:64人/日×20%(増加率)×30%(交通分担率)=3人/日 3人/日×2(往復分)=6人/日・・・通行量
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	平成27年9月、「アップルとおかまち」内に子育て支援センター「くるる」としてオープンしたことにより、市内外からの利用者が増え、概ね目標通りの事業効果を得ている。
計画終了後の状況（事業効果）	子育て世代が中心市街地を訪れる機会が多くなり、併設するサービス付き高齢者住宅や老人デイサービスの利用者との間に、高齢者・子育て世代・子どもの三世代交流が生まれている。
事業の今後について	実施済み

4. 今後について

「歩行者・自転車通行量（平日）」の基準年値5,841人/日に対し、H25年5,595人/日、H26年4,668人/日、H27年4,864人/日、H28年4,088人/日、H29年5,694人/日であり、最終年度の目標値6,400人/日に達することはできなかった。

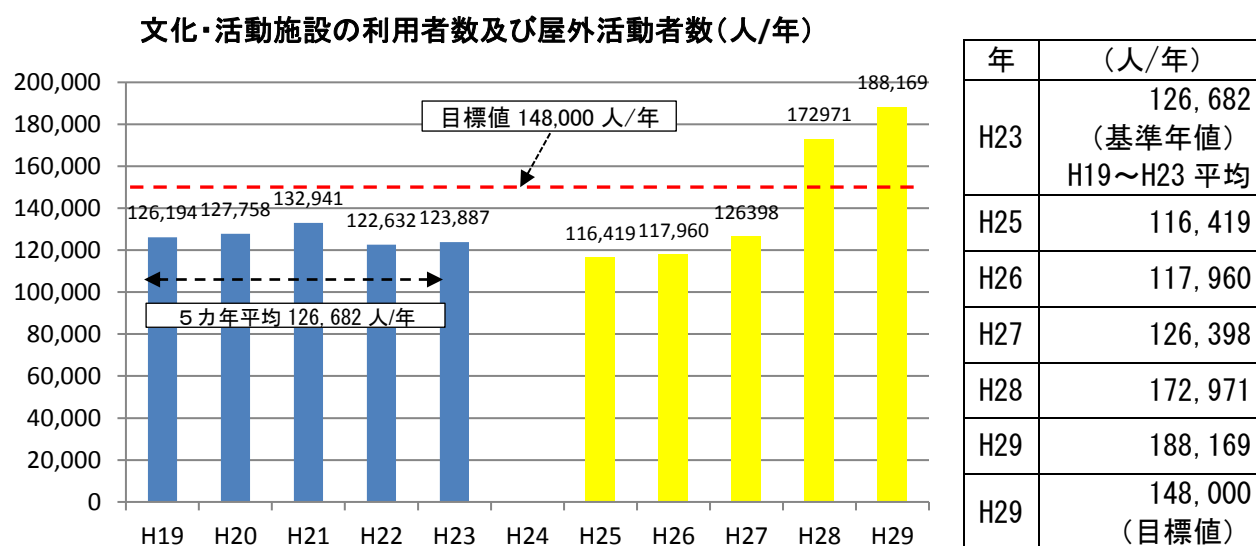
H29年の測定数値は十日町市文化ホール・中央公民館「段十ろう」がオープンする前であったことから、「段十ろう」オープン後の通行量を注視していく必要がある。

今後は市民交流センター「分じろう」、市民活動センター「十じろう」、十日町産業文化発信館「いこて」、「アップルとおかまち」などの施設間の連携を充実させ、来街者の回遊性の向上と滞留時間の延長を図り、歩行者・自転車通行量を増加させていく。

「文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数」(年間)

※目標設定の考え方基本計画 P126～P132 参照

1. 調査結果の推移



※調査方法：公民館等の施設利用者や計画区域内で行われるイベントなどの参加者集計

※調査月：毎年度3月末日

※調査主体：十日町市

※調査対象：計画区域（中心市街地の公民館利用者など）

2. 目標達成の状況【A】

目標である「活動する人を増やす」に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗・完了することができた。文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数（年間）を 148,000 人/日にするという数値目標については、基準値 126,682 人/年（H19～H23 年の平均）に対し、最新値は 188,169 人/年であり目標値を大きく超えたため、達成状況は「A」とした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. (仮称) 十日町市市民文化ホール・中央公民館整備事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(とおかまち地区＜第2期＞)) ・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業と一体となった効果促進事業) ・平成 24 年度～平成 28 年度
事業開始・完了時期	平成 24 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	敷地面積:約 13,900 m ² 市民文化ホール:客席 670 席程度、楽屋、練習室など 中央公民館:ぽかぽか広場、だんだんテラス、キッチンルーム、和室、多目的スペースなど
目標値・最新値	目標値:11,726 人/年 最新値:10,342 人/年
達成状況	未達成

達成した（出来なかった）理由	芸術・文化の振興を目的とした文化ホールと生涯学習・社会教育の推進を目的とした公民館の複合施設整備により、多くの方から幅広く利用されている。しかし、新中央公民館のオープン後、「分じろう」「十じろう」などに一部の利用団体が移動したため、目標値に届かなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 29 年 11 月に愛称「段十ろう」としてオープンした。「まち」と「ひと」を芸術・文化でつなぐにぎわいの拠点となっており、ホールでのコンサートや発表会の開催、公民館での文化活動などにより活動する人が増え、地域のにぎわいが創出された。
事業の今後について	実施済み

②.（仮称）市民活動センター・まちなか公民館整備事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(とおかまち地区<第2期>)) ・平成 24 年度～平成 28 年度
事業開始・完了時期	平成 24 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	低利用ビルを再生し市民活動やサークル活動の場として提供 敷地面積:380 m ² 構造:RC 造、地上3階 延床面積:827 m ² ・事務室、ギャラリー、倉庫(1階) ・ワーキングラウンジ、個人ワークプレイス、プロジェクトルーム(2階) ・創作スペース、工作スペース、準備室(3階)
目標値・最新値	目標値:14,413 人/年 最新値:21,186 人/年
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	『地元の人々の「活動」と「創作」のための施設』をコンセプトに、ギャラリー、ワーキングラウンジ、工作スペースなどを設置した施設であり、多くの市民が利用している。また、高校生などの帰宅前の学習の場としての利用も多い。平成 29 年度は 21,186 人の利用があり、前年度と比較し大幅に増加をしている。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 28 年6月に愛称「十じろう」としてオープンした。市民団体及び市民のまちづくり活動、文化活動の拠点施設と位置付けることにより、市民間の連携を深め、新たな取組や活動の活性化が図られ、活動する人の増加に大きく寄与した。
事業の今後について	実施済み

③. コミュニティガーデン整備事業（NPO 法人にぎわい、地域住民、十日町市）

支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業と一体となった効果促進事業) ・平成 25 年度～平成 28 年度
事業開始・完了時期	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地において、「花と緑」の一大プロジェクトを展開し、花と緑の作品設置によりまちなか回遊を促進する。
目標値・最新値	目標値:1,450 人/年 最新値:3,215 人/年
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	年間を通して花と緑に関する取り組みを行うことにより、住民が率先して参加する場面が作り出され、まちなかへの来訪者が増えるとともに、まちづくりに参加する人が増えた。平成 29 年度のイベント参加者数は 3,215 人と昨年より増加しており、年々関心が高まってきている。

計画終了後の状況（事業効果）	住民参加による中心市街地活性化の機運が高まり、花と緑の作品によりまちなか回遊が促進され、にぎわいが創出された。「花と緑」を通じた十日町市民全体の連帯感が醸成されてきている。
事業の今後について	NPO 法人にぎわいが主体となり継続していく予定

④. 市民健康づくり推進事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	・中心市街地活性化ソフト事業 ・平成 26 年度～平成 27 年度
事業開始・完了時期	平成 26 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	中心市街地内の総延長約 5.3km のアーケード等を利用した、市民参加の健康づくり運動を推進する。
目標値・最新値	目標値:5,000 人/年 最新値:208 人/年
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	まちなかまちじゅうノルディックウォーキングやポールウォーキングを中心市街地内で開催したことにより、活動する人の増加につながった。 しかし、当初見込んだ開催回数を実施することができなかったことなどにより、目標値には届かなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	市民参加の健康づくり運動を推進したことにより、中心市街地を訪れる機会を増やし関心を高めることができた。
事業の今後について	今後も継続をしていく。

⑤. 中心市街地にぎわい力アップ事業（NPO 法人にぎわい）

支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業と一体となった効果促進事業） ・平成 24 年度～平成 28 年度
事業開始・完了時期	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の情報をラジオや、フリーペーパーで定期的な発信 まちなか拠点施設「まちなかのす」の運営 まちなか不動産情報の発信
目標値・最新値	文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数（年間） 目標値:148,000 人/年 最新値:188,169 人/年
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地内のイベントや施設の情報をフリーペーパーの「にぎわい通信」や地域コミュニティラジオの「FMとおかまち」などで発信することにより、まちなかに訪れ活動する人が増えた。また、NPO にぎわいの拠点施設である「まちなかのす」の平成 29 年度の来場者は 9,389 人であり、中心市街地の拠点所となっている。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなかのにぎわい創出のため、まちなかの拠点施設の運営や情報発信、まちなか不動産情報の提供などの事業を行った結果、まちなか拠点施設「まちなかのす」への来場者数は年々増加している。 また、中心市街地の商店と連携した毎月 10 日に行う定期市の「とおか市」は、回数を重ねる毎に参加店が増えており、着実にまちなかでの人の動きも変わってきている。
事業の今後について	今後も継続していく予定

⑥. 中心市街地活性化基金による市民活動支援事業（十日町市）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	市民や民間事業の寄附による基金を活用し、まちなかでにぎわい創出につながる活動をする団体に対し、助成金を交付している。
目標値・最新値	文化、活動施設の利用者数及び屋外活動者数(年間) 目標値:148,000 人/年 最新値:188,169 人/年
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	H25 年度は 12 件、H26 年度は8件、H27 年度は6件、H28 年度は 13 件、H29 年度は5件の申請があり、助成金を活用してまちなかで新たに活動をする人が増えた。
計画終了後の状況（事業効果）	新規・既存活動団体への助成や育成をすることにより、新たな市民の活動が芽生え、まちなかでの活動化が図られた。これにより、中心市街地活性化事業で新たにまちなかに整備した施設での活動の増加が図られている。
事業の今後について	今後も継続をしていく。

4. 今後について

「文化、活動施設の利用者及び屋外活動者数（年間）」の基準値 126,682 人/年に対し、H25 年 116,419 人/年、H26 年 117,960 人/年、H27 年 126,398 人/年、H28 年 172,971 人/年、H29 年 188,169 人/年であり、最終年度の目標値 148,000 人/年を大きく超えることができた。

まちなかステージ施設である「分じろう」、「十じろう」、「段十ろう」などがオープンし、様々なイベントや新たな市民活動により、施設利用者の増加につながった。

今後、各施設利用者の一層の増加を図るとともに、各施設間の連携を図り来街者の回遊を促すことで、中心市街地全体へにぎわいを波及させていくことが必要である。